

初心を力に
楽しむ卓球へ



1 優勝時の団体チーム 2 3 プレー中の吉田さん



よしだ 吉田 ひとようま 彪馬さん プロフィール

宇都宮市役所職員。中学生から卓球を始め、高校や大学では、さまざまな大会で活躍。現在は仕事と両立しながら、県内の高等専門学校で、課外活動指導員として学生の指導も行っている。

昨年8月に開催された「第69回全国教職員卓球選手権大会」。本市職員の吉田さんが、男子団体戦で優勝、ダブルスで3位に輝きました。

本大会は、全国の教職員や卓球指導にあたる外部指導員などを対象に、男女別・年代別などの種目が設けられ、幅広い層が出場します。

団体戦は、ダブルス1試合とシングルス4試合を行い、3試合先取で勝敗を決めます。決勝戦について「自分が出場する2試合目のシングルスが勝敗を左右すると思いい、気持ちが入った。栃木県勢の男子団体としては初優勝であり、個人的にも全国大会で団体優勝するのは初めてだったので、とてもうれしい」と笑顔で振り返ります。ダブルスについては「準決勝で1セット目を先取したが、2セット目からは、ミスが増えて自分たちのやりたいことができなかった」と悔しさをにじませます。

中学校の部活動で卓球を始めた吉田さん。2年生になる頃、大会を見に来ていた強豪クラブチームの監督から声を掛けられ、クラブチームに所属しました。これまでの「楽しむ卓球」から、成績重視

の「勝つための卓球」へと練習内容に変化していきました。努力を重ねた結果、中学3年生では関東大会に出場することができました。「監督から声をかけてもらえたおかげで、成長でき、高校も強豪校からスカウトしてもらえた。間違いなく、人生の転機の一つだった」と監督への感謝を語ります。

高校では卓球強豪校としての練習に加え、大学受験を見据えた勉強との両立で多忙を極めていた吉田さん。「卓球の強い国公立大学に合格できたのはよかったが、両立が大変で、いつの間にか楽しさを忘れ、結果を出すための練習になっていた」と振り返ります。

吉田さんは現在、働きながら練習に励み、課外活動指導員として学生の指導にもあたっています。「社会人になってからは、満足のいく練習時間が確保できず、苦しい時があったが、初心を思い出し、今は楽しんで卓球をやろうと思うようになった。学生には、初心を忘れずに取り組むことや卓球の楽しさを伝えていきたい」と話します。

初心を胸に、吉田さんの卓球人生は、これからも長く続いています。